

日雇い・短期派遣労働者の就業実態調査

〒100-6640 東京都千代田区丸の内1-9-2
グラントウキョウサウスタワー
株式会社リクルート ワークス研究所
所長 大久保 幸夫

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO: 柏木 齊)の人と組織に関する研究機関・ワークス研究所では、『日雇い・短期派遣労働者の就業実態調査』を実施しましたので、結果をご報告いたします。

▶日雇い・短期派遣で働く者のうち、副業、求職活動、家事、学業など、『本業のかたわら』に日雇い・短期派遣で働く者が、全体の85.6%をしめる。日雇い・短期派遣就労が生活の中心である「短期派遣専業」は11.0%にとどまる。

▶日雇い・短期派遣で働く理由は、「副業」「学生」「主婦」は「都合のよい時にだけ働けるから」だが、「短期派遣専業」「失業・求職中」は「すぐに収入が必要だから」が最も多い。短期派遣制度に対しても、「副業」「学生」「主婦」は良い仕組みとの評価が半数を超えるが、「短期派遣専業」「失業・求職中」は超えない。

▶日雇い・短期派遣で働く者の中には、正社員や会社経営の「副業」など、複数の仕事をかけもつ『多重就労』の状態にある者が存在する。日雇い・短期派遣で働く者の1カ月の平均就業日数は14.4日、うち日雇い・短期派遣による就業は6.6日(45.9%)、1カ月の平均収入は9.9万円、うち日雇い・短期派遣による収入は3.4万円(34.6%)である。

<本件に関するお問い合わせ先>
株式会社リクルート ワークス研究所
中村 天江

03-6835-9245(直通)

e-mail: works_1@r.recruit.co.jp <http://www.works-i.com/>

【調査の目的】

日雇い・短期派遣で働く労働者の就業実態を明らかにすること

【調査概要】

調査対象 : 軽作業領域における日雇い・短期派遣事業の最大手フルキャスト社(FC社)の協力を得て、2010年5～7月に就業実績のある、雇用契約2カ月以内の派遣労働者に調査を実施。

調査期間 : 2010年8月6日～8月19日

分析対象 : モバイル(携帯)メールを通じて21,597人にアンケートを告知し、2,299人から回答を得た。回答不備等を除外した1,916人を対象に分析を行った。
※回答が中立的に行われるようアンケート画面上で、「回答によって仕事紹介の数や内容に影響はありません」と補足を行っている。

回収方法 : 同一のアンケート画面をWebとモバイルに設置した。
モバイル回答者1,744人(割合91.0%)、Web回答者172人(割合9.0%)

【本調査の用語】

日雇い派遣 : 日々、もしくは30日以下の雇い入れで行われる派遣のこと。

短期派遣 : 第175臨時国会で継続審議となっている「労働者派遣法改正案」には、社会保険(健康保険・厚生年金保険)の加入対象にならない雇用契約が2カ月以内の派遣の禁止が盛り込まれている。本調査では、日雇い派遣を含む、雇用契約が2カ月以内の派遣を「短期派遣」と定義した。

短期派遣専業 : 「2010年5～7月のあなたの立場として最も近いものを選んでください」という設問で、「2カ月以下の短期雇用契約の派遣労働者(フルキャストの派遣がメイン)」「2カ月以下の短期雇用契約の派遣労働者(フルキャストの派遣は副業)」と回答した者。

副業 : 「2010年5～7月のあなたの立場として最も近いものを選んでください」という設問で、「自営業・独立(派遣は副業)」「正社員(派遣は副業)」「契約社員(派遣は副業)」「アルバイト・パート(派遣は副業)」「2カ月より長期雇用契約の派遣労働者(フルキャストの派遣は副業)」を選択している者。

失業・求職中 : 「2010年5～7月のあなたの立場として最も近いものを選んでください」という設問で、「失業・求職中」と回答した者。当該期間に収入をとまなう就労を行っていることもある。

【主要属性】

- 最終学歴は、「短大・高専・専門学校中退」などの中退者も含めると、「中学卒業」「高校卒業」が47.9%と5割近い。
- 正社員経験は、「ない」が約3割存在する一方で、「ある(3～10年未満)」「ある(10年以上)」で半数をしめる。
- 雇用契約は、「1日ごとの有期契約が中心」が88.2%で、日雇い・短期派遣労働者のほとんどは「日々、雇い入れ」されている。

性別	構成比 (%)
男性	54.7
女性	45.3

結婚	構成比 (%)
未婚	73.9
既婚	26.1

主たる家計支持者か	構成比 (%)
家計支持者	46.5
非家計支持者	53.5

年齢	構成比 (%)
19歳以下	5.8
20～24歳	18.5
25～29歳	15.0
30～34歳	15.3
35～39歳	17.0
40～44歳	12.4
45～49歳	8.8
50～54歳	4.9
55～59歳	1.6
60歳以上	0.6

居住地	構成比 (%)
北海道・東北	4.0
北関東	5.9
首都圏 (1都3県)	46.5
東海	17.1
関西	17.7
中国・四国	4.6
九州・沖縄	4.2

最終学歴	構成比 (%)
中学卒業	1.8
高校中退	2.8
高校卒業	39.4
短大・高専・専門学校中退	3.9
短大・高専・専門学校卒業	20.7
大学・大学院中退	5.0
大学・大学院卒業	24.7
その他	1.8

正社員経験	構成比 (%)
ない	29.1
ある (1年未満)	7.0
ある (1～3年未満)	13.2
ある (3～10年未満)	27.6
ある (10年以上)	23.1

日雇い・短期派遣 (FC社) での主な仕事	構成比 (%)
軽作業 (倉庫)	41.2
軽作業 (製造)	16.9
軽作業 (引越・配送)	14.5
接客 (販売・サービス・飲食)	5.4
オフィス (事務・営業・テレマOP)	7.5
イベント (イベント・モニタ調査)	5.1
その他 (清掃・その他)	9.6

日雇い・短期派遣 (FC社) の雇用契約	構成比 (%)
1日ごとの有期契約が中心	88.2
2日～1週間以下の有期契約が中心	5.4
1週間～2カ月以下の有期契約が中心	6.4

雇用保険への加入	構成比 (%)
加入要件を満たし、加入している	24.5
加入要件を満たさないが、加入したい	18.9
加入要件を満たさないし、加入したくない	26.2
よくわからない	30.4

社会保険 (健康保険・年金) への加入	構成比 (%)
加入要件を満たし、加入している	48.5
加入要件を満たさないが、加入したい	12.5
加入要件を満たさないし、加入したくない	14.9
よくわからない	23.0
無回答	1.2

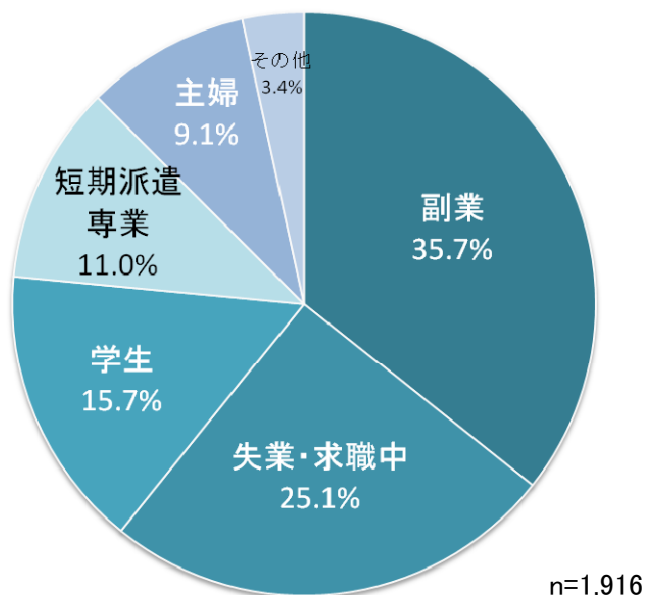
n=1,916

(注)割合は小数点第2位を四捨五入

【日雇い・短期派遣で働いているのは誰か？】

- 日雇い・短期派遣で働く者のうち、雇用契約が2カ月以内の短期派遣を中心に生活している「短期派遣専業」の労働者は11.0%にとどまる。
- 「短期派遣専業」以外の85.6%は（「その他」除く）、正社員やパート・アルバイトの仕事、求職活動、家事、学業など、『本業のかたわら』に日雇い・短期派遣で働いている。
- 日雇い・短期派遣を副業として活用している「副業」（35.7%）の内訳は、「自営業・独立の副業」（7.1%）、「正社員の副業」（9.1%）、「非正規社員の副業」（19.5%）である。

日雇い・短期派遣で働く人々の就業タイプ



日雇い・短期派遣労働者の就業タイプとその内訳

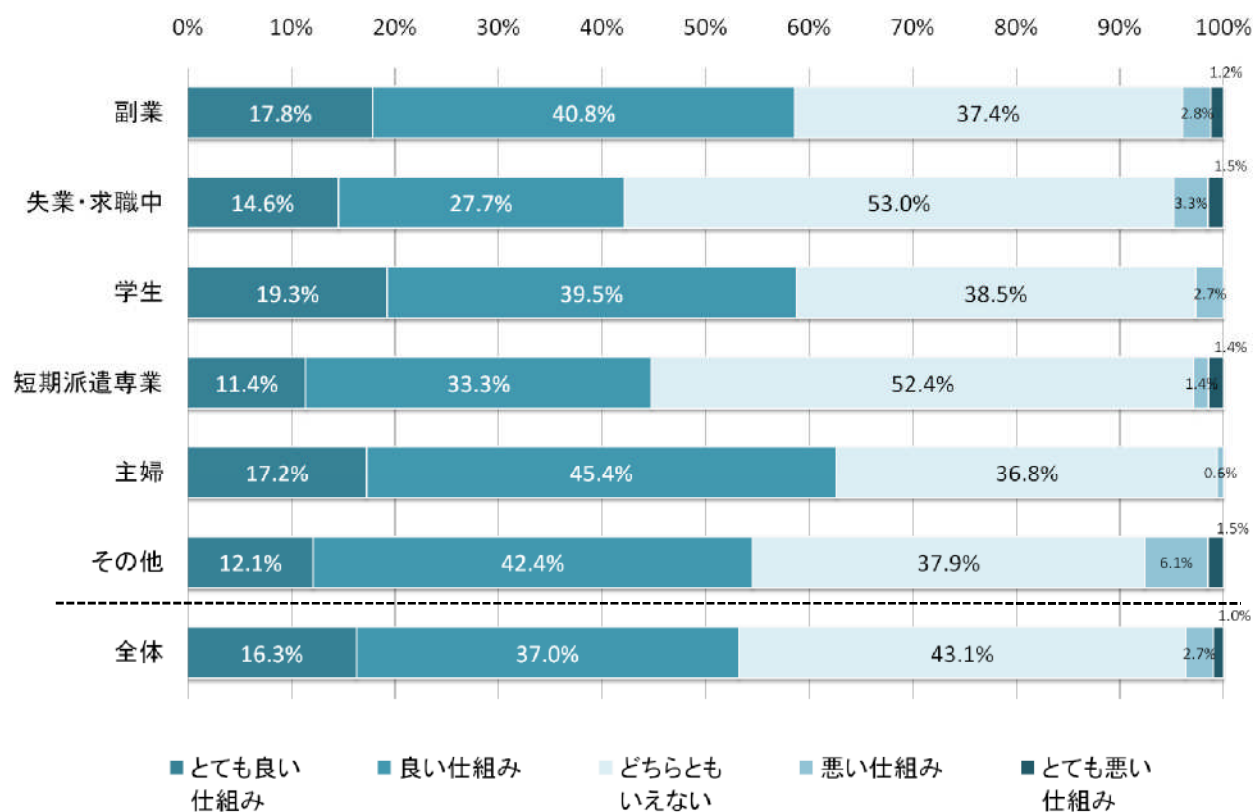
就業タイプ	雇用形態や立場	構成比	構成比
副業	自営業・独立	7.1%	35.7%
	正社員	9.1%	
	非正規社員	19.5%	
	契約社員	(4.7%)	
	パート・アルバイト	(12.6%)	
	短期派遣ではない派遣労働者	(2.1%)	
失業・求職活動中		25.1%	25.1%
学生		15.7%	15.7%
短期派遣専業	短期派遣労働者(フルキャストの短期派遣が中心)	9.3%	11.0%
	短期派遣労働者(フルキャスト以外の短期派遣が中心)	1.6%	
主婦	主婦・主夫	7.4%	9.1%
	家事手伝い	1.7%	
その他	引退・退職	0.9%	3.4%
	その他	2.5%	
全体		100.0%	100.0%

(注)割合は小数点第2位を四捨五入

【短期就業者の日雇い・短期派遣制度に対する評価】

- 2カ月以内の短期就業において派遣会社が介在する仕組みを良いと評価する者は、「主婦」(62.6%)は6割を超え、「副業」(58.6%)、「学生」(58.8%)も6割弱存在する。
- 派遣会社が介在する仕組みを良いと評価する者は、「失業・求職中」(42.2%)、「短期派遣専業」(44.8%)は5割に満たない。

2カ月以内の短期就業において派遣会社が介在する仕組みの評価



2カ月以内の短期就業において派遣会社が介在する仕組みの評価(三分割)

就業タイプ	とても良い仕組み	良い仕組み	どちらともいえない	悪い仕組み	とても悪い仕組み
副業	58.6%	37.4%	3.9%		
失業・求職中	42.2%	53.0%	4.8%		
学生	58.8%	38.5%	2.7%		
短期派遣専業	44.8%	52.4%	2.9%		
主婦	62.6%	36.8%	0.6%		
その他	54.5%	37.9%	7.6%		
全体	53.2%	43.1%	3.7%		

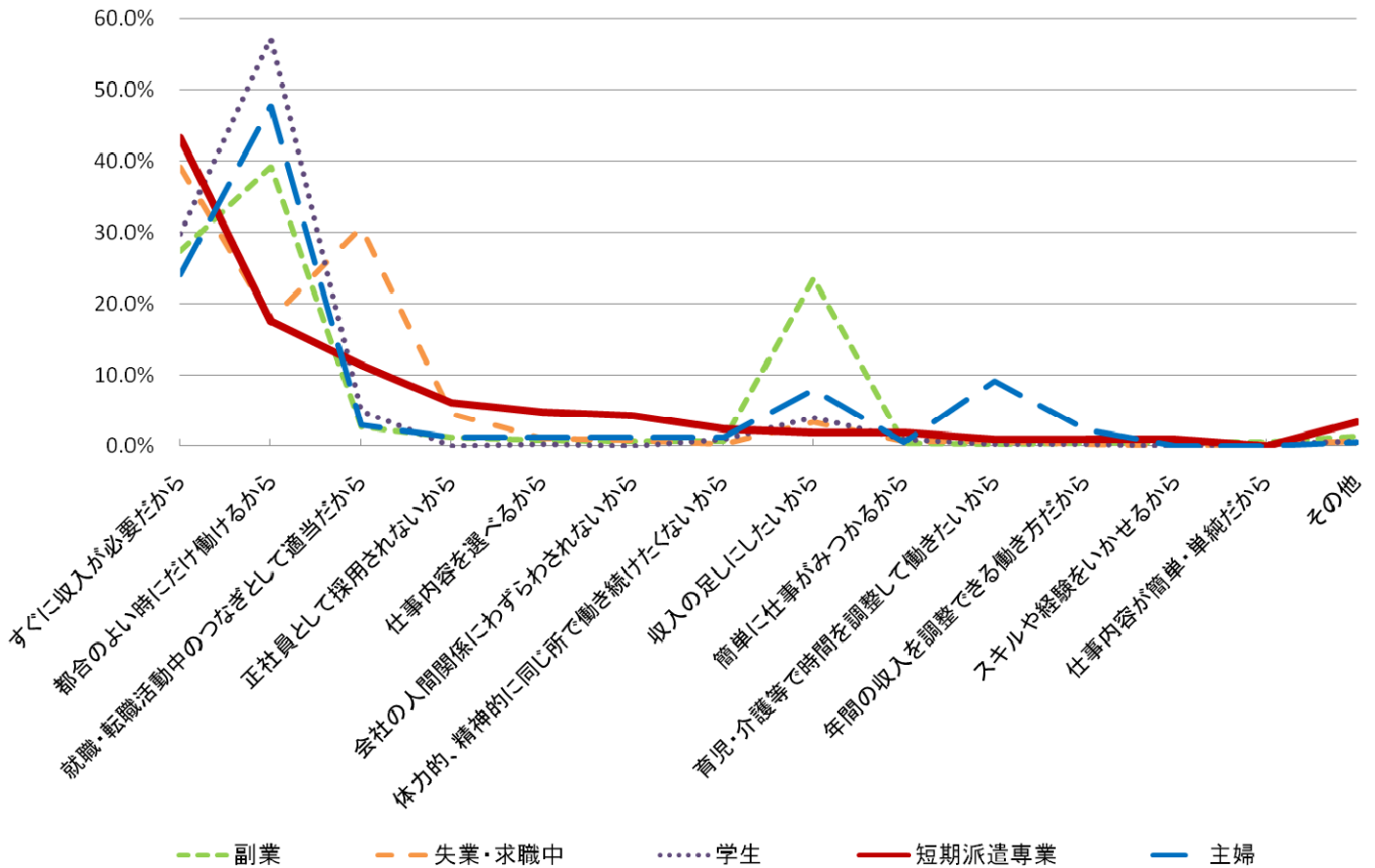
(注)割合は小数点第2位を四捨五入

※本設問に関しては回答画面にて「この回答によって仕事紹介の数や内容に影響はありません」と補足を行っている

【日雇い・短期派遣で働く理由】

- 「副業」「学生」「主婦」は、「都合のよい時にだけ働けるから」という理由が最も多い。
- 「失業・求職中」「短期派遣専業」は、「すぐに収入が必要だから」という理由が最も多い。
- 「副業」が他の就業タイプよりも多くあげている理由は、「収入の足しにしたいから」(23.5%)、「失業・求職中」が他の就業タイプよりも多くあげている理由は、「就職・転職活動のつなぎとして適当だから」(30.8%)である。

日雇い・短期派遣で働く一番の理由



就業タイプ	すぐに収入が必要だから	都合のよい時にだけ働けるから	就職・転職活動中のつなぎとして適当だから	正社員として採用されないから	仕事内容を選べるから	会社の人間関係にわずらわれないから	体力的、精神的に同じ所で働き続けたくないから	収入の足しにしたいから	簡単に仕事が見つかるから	育児・介護等で時間を調整して働きたいから	年間の収入を調整できる働き方だから	スキルや経験をいかせるから	仕事内容が簡単・単純だから	その他
副業	27.5%	39.2%	2.6%	1.2%	0.9%	0.7%	0.7%	23.5%	0.4%	0.3%	0.4%	0.6%	0.6%	1.3%
失業・求職中	39.1%	17.9%	30.8%	4.6%	1.0%	0.8%	0.2%	3.3%	0.6%	0.6%	0.2%	—	0.2%	0.6%
学生	29.9%	57.1%	5.0%	—	0.3%	—	1.0%	4.0%	1.0%	0.3%	0.3%	—	0.3%	0.7%
短期派遣専業	43.3%	17.6%	11.4%	6.2%	4.8%	4.3%	2.4%	1.9%	1.9%	1.0%	1.0%	1.0%	—	3.3%
主婦	24.1%	47.7%	2.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	8.0%	0.6%	9.2%	2.3%	—	—	0.6%
その他	39.4%	24.2%	12.1%	3.0%	4.5%	—	1.5%	7.6%	—	3.0%	—	1.5%	—	3.0%
全体	32.6%	34.6%	11.4%	2.5%	1.4%	1.0%	0.9%	11.1%	0.7%	1.4%	0.6%	0.4%	0.3%	1.3%

(注) —は回答数0、割合は小数点第2位を四捨五入

【派遣会社が介在するメリット・デメリット】

- 短期就業において派遣会社が介在するメリットは、すべての就業タイプで「仕事探しの手間がかからない」が最も多い。
- 短期就業において派遣会社が介在するデメリットは、「学生」以外の就業タイプでは、「派遣会社に手数料を取られ賃金が少ない」が最も多い。
- 「短期派遣専業」は、メリットとして「賃金がすぐに支払われる」(25.7%)、「面接など派遣先による採用試験がない」(18.1%)が続く。「面接など派遣先による採用試験がない」は、全体よりも6ポイント以上高い。
- 「主婦」は、メリットとして「就業条件が明確で初めての派遣先でも安心できる」(19.5%)をあげる一方、デメリットとして「書類の確認など手続きが面倒である」(9.2%)をあげている。
- 「学生」は、「派遣先がどのようなところかわからず不安である」(27.2%)、「アルバイトやパートと比較して時給が安い」(21.9%)をデメリットとしてあげる割合が、他の就業タイプより多い。

2カ月以内の短期就業において派遣会社が介在する一番のメリット

就業タイプ	仕事探しの手間がかからない	賃金がすぐに支払われる	面接など派遣先による採用試験がない	就業条件が明確で初めての派遣先でも安心できる	派遣会社が派遣契約と就業実態が一致しているか確認してくれる	派遣会社が職場環境・安全衛生について改善を申し入れてくれる	キャンセル時など派遣会社がかわりに派遣先と話してくれる	アルバイトやパートと比較して時給が高い	保険・年金に加入できる	キャリア形成や能力開発につながる就労を支援してくれる	その他	メリットなし
副業	49.3%	24.6%	7.9%	10.4%	2.3%	0.9%	0.6%	1.2%	0.1%	—	0.7%	2.0%
失業・求職中	35.1%	31.0%	13.9%	9.8%	1.9%	0.6%	0.4%	2.1%	0.6%	1.2%	0.2%	3.1%
学生	51.2%	19.3%	10.6%	13.0%	0.3%	0.3%	1.0%	2.0%	0.7%	0.7%	—	1.0%
短期派遣専業	35.7%	25.7%	18.1%	8.6%	2.9%	2.4%	1.9%	1.4%	0.5%	—	1.0%	1.9%
主婦	42.0%	16.1%	12.6%	19.5%	1.1%	2.3%	1.7%	1.7%	—	—	1.7%	1.1%
その他	39.4%	22.7%	7.6%	18.2%	1.5%	1.5%	—	—	1.5%	1.5%	3.0%	3.0%
全体	43.5%	24.6%	11.4%	11.5%	1.8%	1.0%	0.8%	1.6%	0.4%	0.5%	0.7%	2.1%

2カ月以内の短期就業において派遣会社が介在する一番のデメリット

就業タイプ	派遣会社に手数料を取られ、賃金が少ない	派遣先がどのようなところかわからず不安である	アルバイトやパートと比較して時給が安い	直接雇用のアルバイトや正社員から不当に区別・差別される	派遣先で派遣から直接雇用(アルバイトなど)に変わる機会がない	書類の確認など手続きが面倒である	キャリア形成や能力開発につながる就労を支援してくれない	職場環境・安全衛生など派遣先の雇用管理がずさんである	就業実態が派遣契約と異なることが多い	保険・年金に加入できない	その他	デメリットなし
副業	26.5%	19.3%	16.2%	7.3%	1.3%	5.6%	0.6%	2.3%	1.6%	1.5%	3.9%	13.9%
失業・求職中	26.0%	19.3%	15.8%	7.5%	4.0%	4.4%	1.7%	2.9%	3.5%	2.7%	3.3%	8.9%
学生	17.3%	27.2%	21.9%	3.0%	0.7%	7.3%	1.0%	3.7%	1.3%	0.7%	3.7%	12.3%
短期派遣専業	29.5%	16.7%	14.8%	9.0%	4.3%	3.3%	2.9%	2.4%	1.9%	1.4%	4.8%	9.0%
主婦	20.1%	19.0%	12.6%	6.9%	0.6%	9.2%	—	2.3%	1.7%	2.9%	6.3%	18.4%
その他	25.8%	15.2%	10.6%	7.6%	3.0%	10.6%	1.5%	3.0%	3.0%	3.0%	4.5%	12.1%
全体	24.6%	20.1%	16.3%	6.8%	2.2%	5.8%	1.1%	2.7%	2.1%	1.8%	4.1%	12.2%

(注) — は回答数0、割合は小数点第2位を四捨五入

※表中数字の網かけは全体より4.0ポイント以上大きい
表中数字の斜体は全体より4.0ポイント以上小さい

【就業日数と収入】

- 1カ月の平均就業日数は14.4日、うち日雇い・短期派遣による就業は6.6日(45.9%)であった。日雇い・短期派遣で働く者の中には、「副業」をはじめ『多重就労』状態にある者が存在する。
- 1カ月の平均収入は9.9万円、うち日雇い・短期派遣による収入は3.4万円(34.6%)であり、日雇い・短期派遣以外にも収入を得る手段のある者が存在する。
- 「副業」では、1カ月の就業日数の25.3%、1カ月の収入の15.9%を、日雇い・短期派遣労働がしめる。
- すべての就業タイプで本人以外の収入が、本人の収入よりも多い。

1カ月の就業日数

就業タイプ	1カ月の就業日数の平均 (*1)	
	うち日雇い・短期派遣 の就業日数(割合) (*2)	
副業	19.9日	5.0日 (25.3%)
失業・求職中	12.4日	8.2日 (66.2%)
学生	7.6日	3.6日 (47.5%)
短期派遣専業	16.5日	13.0日 (79.0%)
主婦	8.4日	5.9日 (70.3%)
その他	12.4日	6.7日 (53.7%)
全体	14.4日	6.6日 (45.9%)

収入と負債

就業タイプ	1カ月の本人収入の平均 (*3)		1カ月の世帯収入		本人名義の借金・ローン	
	うち日雇い・短期派遣 による収入(割合) (*4)		本人以外の 収入	本人以外の 収入	借金・ローン がある割合	借金・ローン の平均額 (*5)
副業	16.7万円	2.6万円 (15.9%)	36.2万円	19.6万円	43.7%	422万円
失業・求職中	7.2万円	4.3万円 (60.5%)	25.7万円	18.5万円	34.5%	166万円
学生	3.3万円	1.6万円 (49.0%)	38.7万円	35.4万円	12.0%	95万円
短期派遣専業	9.4万円	7.2万円 (76.1%)	25.2万円	15.7万円	39.0%	381万円
主婦	4.2万円	2.8万円 (66.5%)	34.7万円	30.6万円	17.2%	114万円
その他	7.9万円	3.4万円 (43.3%)	36.8万円	28.9万円	24.2%	305万円
全体	9.9万円	3.4万円 (34.6%)	32.6万円	22.7万円	32.8%	319万円

(*1) 就業日数はFC社とFC社以外をわけてたずね、上記はそれらを足し合わせた結果。

(*2) 日雇い・短期派遣の就業日数はFC社の日雇い・短期派遣の就業日数であり、FC社以外の日雇い・短期派遣就業がある場合はさらに多くなる。とくに「短期派遣専業」は、FC社以外の日雇い・短期派遣就業があると考えられる。

(*3) 収入はFC社とFC社以外をわけてたずね、上記はそれらを足し合わせた結果。

(*4) 日雇い・短期派遣による収入はFC社の日雇い・短期派遣からの収入であり、FC社以外の日雇い・短期派遣就業がある場合はさらに多くなる。とくに「短期派遣専業」は、FC社以外の日雇い・短期派遣からの収入があると考えられる。

(*5) 借金・ローンの平均額は借金・ローンがあると回答した628人の平均。

n=1,916

(注) 割合は小数点第2位を四捨五入